NIE実践報告

1．タイトル：☆読む力・考える力・書く力を育てる新聞活用

2．学校名

新潟県立新潟江南高等学校

3．実践者名（代表者名）

大滝　雅代

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

現代文・情報A　191人

6．単元（本時の学習課題）名

社説を読み比べよう

7．目標（狙い）

同じ事柄を扱った6紙の社説を比べ、各社の違いを読み取り、それがわかるように要約したうえで、自らの立場と根拠を明らかにして意見を書く。

8．評価の視点

・各社の立場の違いとその裏付けとなる根拠がわかるように要約ができたか。
・自らの立場を明らかにし、根拠を挙げて意見を述べることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

(1)「新聞について知ろう」現代文1時間
(2)「社説を読み比べ、立場の違いを読み取ろう」現代文2時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)新聞記事の構成を知り、効果的な読み方をするための方策の一つとする。(1時間)
(2)「臓器移植法改正A案」の衆議院通過に関する6月19日の朝刊各紙の「社説」を読み、各紙の論の主旨とその根拠をまとめる。(1時間)
(3)「臓器移植法改正A案」について自らの立場を明らかにしてその根拠を示しつつ意見文を書く。(1時間)
(留意点)
・実際の新聞を手にしながら新聞の構成を学ばせることで、新聞記事に関心を持たせる。
・印刷の版が異なる新聞を用意し、記事の扱い方の違いを示し、時間経過による情報量の違いやわかりやすく伝えるためのプロの工夫に気づかせる。
・社説を読ませる前に「臓器移植法」改正への大まかな流れを示し、理解の一助とする。
・各社の社説を読み取る際には、まず大きく「賛成」「反対」の立場を捉えた上で細部を読み取っていくよう助言する。
・意見文については、新聞記事の抜き出しではなく、自らの言葉で書くよう促す。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・構成を確認した後、少し空いた時間に新聞記事に読みふける生徒の姿も多く見られた。
・「臓器移植法」改正については、様々な角度から検討してみる必要がある問題だっただけに、各自の知識の範囲内で真剣に考えて意見を書こうとしていた。

12．成果と課題

・授業として扱う限りにおいては、生徒たちは真剣に取り組み、新聞から知識を得て自らの考えを持とうとする姿勢が見られた。
・この実践と並行して3学年の各教室に1紙ずつ新聞を配置していたが、活用していた生徒は少なく、実践が日常の行動には結びつかずに単発の活動となってしまった。生徒たちにとっての「情報を得て考える」きっかけづくりとなる活動を今後とも模索していきたい。